

比 恵 67

—比恵遺跡群第 126 次の報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1238 集

2014

福岡市教育委員会

H I E
比 恵 67

—比恵遺跡群第126次調査の報告—
福岡市埋蔵文化財調査報告書第1238集



遺 跡 略 号 HIE-126
遺 跡 調 査 番 号 1229

2014

福岡市教育委員会

序

福岡市では北方に広がる玄界灘の海を介し、大陸との間で人、物、文化の交流が絶え間なく続けられてきました。この地の利を生かした人々の歴史を物語る多くの遺構、遺物は地中に残され、調査が進むにつれ明らかになってきました。その中には、大陸の先進技術、文化を示す貴重なものも多く、学術研究上、注目されているところです。

今回の調査は事務所建設に伴い実施した比恵遺跡群第126次調査です。比恵遺跡群は弥生時代の「奴国」の拠点の一つとして全国のなかでも繁栄を極め、権力や先進技術を示す青銅器やその製造に関連した遺物も出土しています。本調査では比恵遺跡群の旧地形を明らかにすることができ、土地利用を考察するうえで貴重な資料を得ることができました。

本書はこうした調査成果を収めたもので、やむなく多様な開発で消滅する埋蔵文化財の記録保存の一つです。研究資料とともに埋蔵文化財に対するご理解と活用への一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査に際しご協力いただいた事業者様をはじめ関係者各位の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成26年3月24日

福岡市教育委員会
教育長 酒井 龍彦

例言

1. 本書は福岡市博多区博多駅南5丁目43番2において福岡市教育委員会が2012年度に実施した発掘調査の報告書である。
2. 調査は荒牧宏行が担当し、遺構図面作成、遺構写真撮影は荒牧が行った。
3. 本書に掲載した図面の浄書は樋口久美子 荒牧が行い、執筆、編集は荒牧が行った。
4. 本書掲載の実測図、写真、遺物等の調査で得られた資料類は福岡市埋蔵文化財センターに収蔵・保管され、公開、活用されていく予定である。

凡例

1. 本書掲載の遺構図座標と方位は国土座標第II系による。

本文目次

I はじめに

| | |
|------------|---|
| 1. 調査に至る経過 | 1 |
| 2. 調査の組織 | 1 |

II 位置と環境

| | |
|----------------|---|
| 調査地点の位置と地形について | 3 |
|----------------|---|

III 調査の記録

| | |
|-----------|---|
| 1. 基本層序 | 5 |
| 2. 調査区の設定 | 5 |
| 3. 遺構の説明 | 5 |

IV おわりに

| | |
|----------------|---|
| 調査地点周辺の旧地形について | 8 |
|----------------|---|

挿図目次

| | |
|---|---|
| Fig.1 126 次調査地点と周辺調査地点 | 2 |
| Fig.2 調査範囲 (1/400) | 3 |
| Fig.3 遺構配置図 (1/200) | 3 |
| Fig.4 SD01、SD02、調査区西壁土層図 (1/40) | 4 |
| Fig.5 SX07 出土甕棺片 (1/3) | 5 |
| Fig.6 第 126 次調査地点位置 (推定旧地形) | 8 |
| Fig.7 第 126 次周辺地形 (1/4,000 「比恵 55」 Fig.2 に加筆) | 8 |

I はじめに

1. 調査に至る経緯

福岡市教育委員会は同市博多区博多駅南 5 丁目 43 番 2 における事務所建設に伴う埋蔵文化財の有無についての照会を平成 24 年 10 月 22 日付で受理した。これを受けた埋蔵文化財審査課事前審査係は書類審査を行い同年 11 月 2 日に試掘調査を実施した。この結果、地表下約 70cm で遺構が確認されたことから遺構の保全等について申請者と協議を行った。しかし、埋蔵文化財への影響が回避できないことから、建築部分について記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。

その後、平成 24 年 11 月 30 日付で株式会社 中西製作所を委託者、福岡市長を受託者として埋蔵文化財調査業務委託契約書を締結し、同年 12 月 17 日から発掘調査を実施し、平成 25 年度に資料整理および報告書作成を行うことになった。

2. 調査の組織

調査委託 株式会社 中西製作所

調査主体 福岡市教育委員会

(発掘調査 平成 24 年度 資料整理 平成 25 年度)

調査総括 経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課 課長 宮井善朗 (平成 24・25 年度)

同課第 2 係長 菅波正人 (平成 24 年度)

榎本義嗣 (平成 25 年度)

庶務 埋蔵文化財第 1 課 (現・埋蔵文化財審査課) 管理係長 和田安之

管理係 川村啓子 (平成 24・25 年度)

事前審査 埋蔵文化財審査課 事前審査係長 加藤良彦 (平成 24・25 年度)

同課主任文化財主事 佐藤一郎 (平成 24・25 年度)

森本幹彦

調査担当 埋蔵文化財調査課 主任文化財主事 荒牧宏行

なお、文化財部は組織改編のため平成 24 年 4 月 1 日付で教育委員会から経済観光文化局に移管した。

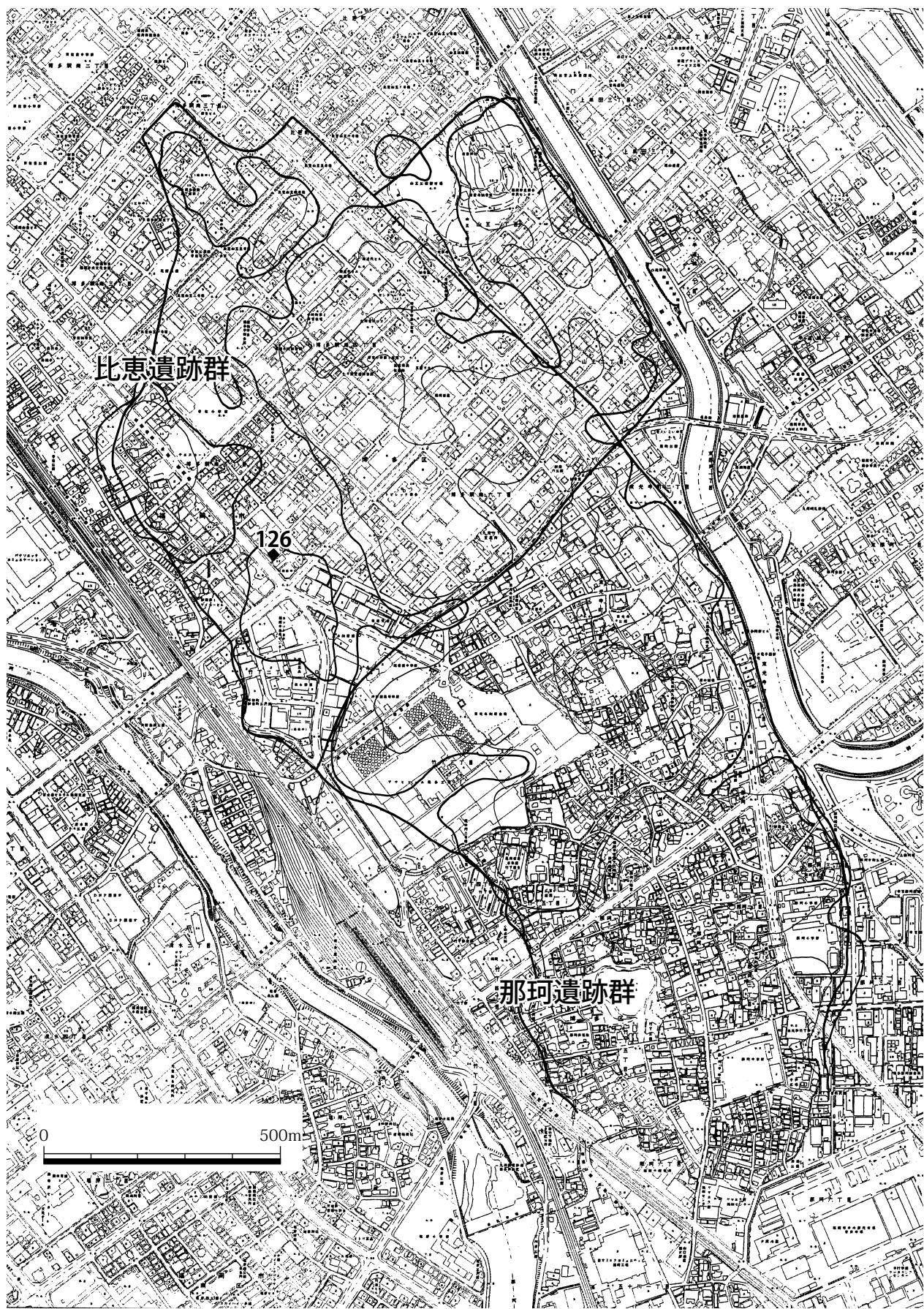


Fig.1 126次調査地点と周辺調査地点

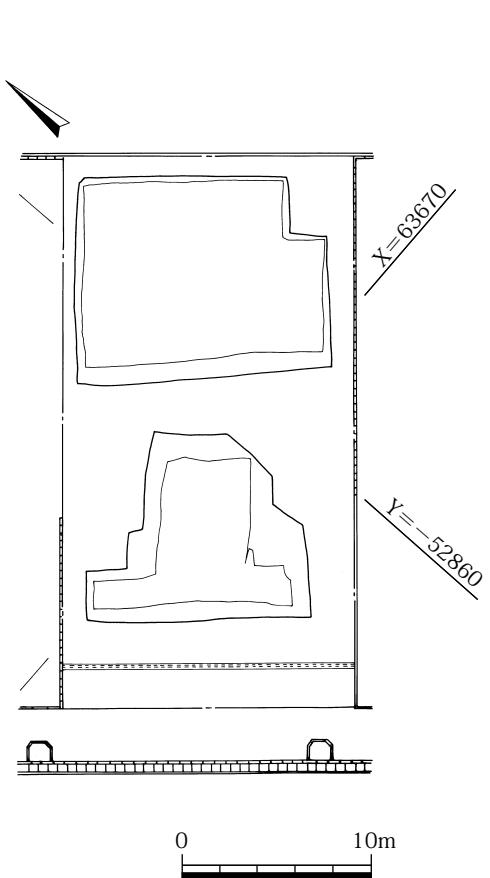


Fig.2 調査範囲 (1/400)

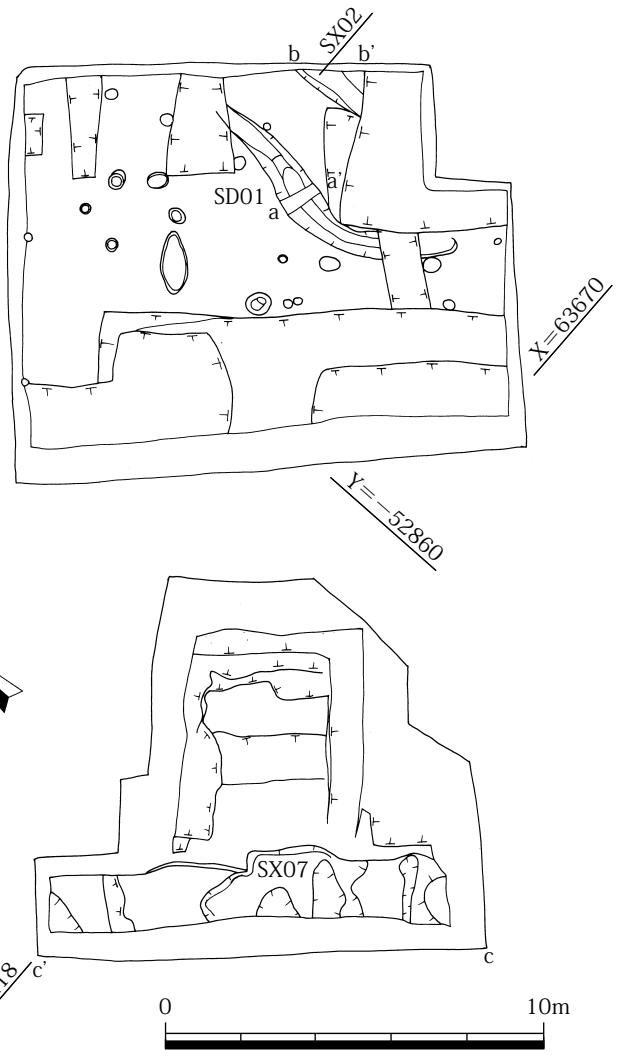


Fig.3 遺構配置図 (1/200)

II 位置と環境

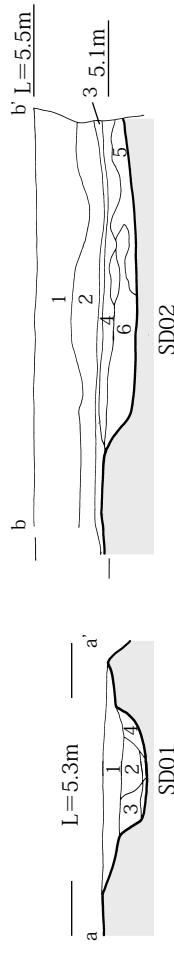
調査地点の位置と地形について

調査地点は比恵遺跡群の南西部に位置する。既往の調査や旧地形図から東西に谷部が延びていると推定されていた。

本調査区南側の第84次調査（年報Vol.18）では搅乱、削平が著しいが標高5.6mの鳥栖ローム面から弥生中期の甕棺や11世紀後半以降の中世井戸が検出されている。さらに南側の23次（市報227集）は東側へ落ちていく台地縁辺に位置している。基盤層のローム面の形状は明らかではないが6世紀後半以降の遺物を含む包含層が堆積している。検出された溝や井戸は古代以降のものと報告されている。隣接した73次（年報Vol.15）では八女粘土の遺構面が標高4.1m～4.8mまで南西から北東に向かって落ちていく。検出された遺構はピット5個のみである。

以上から周辺の調査で鳥栖ロームが残っている地点は本調査の126次地点と南側の84次調査地点のみであることから、細く南北に延びた台地の残丘が続いていることが判る。

さらに試掘成果や本調査成果を加えまとめにおいて再度考察することにする。



- 1. 灰色粘質土
- 2. 灰色粘質土
- 3. ローム混灰色粘土
- 4. ローム混灰色粘土
- 1. 客土
- 2. 水田耕作土
- 3. 黄灰褐色土(床土) 酸化鉄集積層 褐鉄、マンガンが沈着)
- 4. 暗灰色粘質土(上面に褐鉄、マンガンが沈着)
- 5. 灰色粘土混ローム(ローム中に褐鉄、マンガンを多く含む)
- 6. 灰色粘土

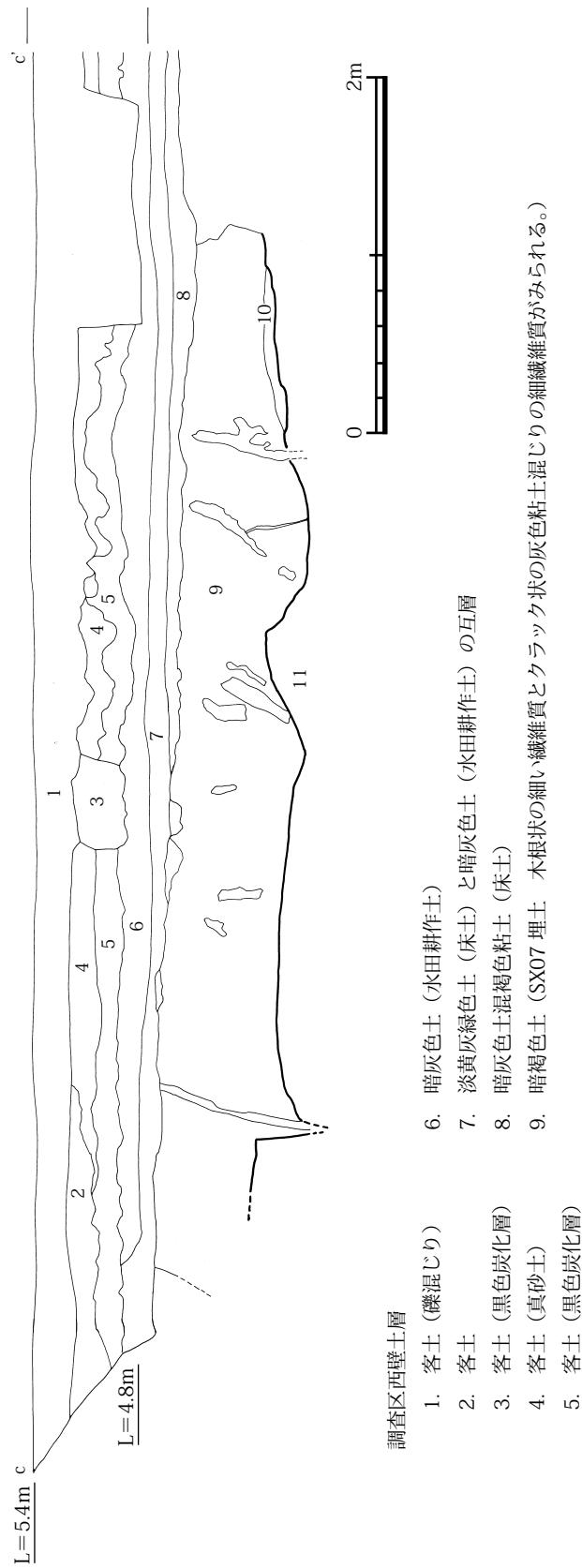


Fig.4 SD01、SD02、調査区西壁土層図 (1/40)

III 調査の記録

1. 基本層序

現地表下に客土、水田耕作土が堆積し、その下層の淡橙色を呈した鳥栖ローム下部が遺構検出面となる。地表面は標高 5.4m を測り、ローム面は東側で 5.1m、西側は攪乱が著しいが、標高 4.8m まで傾斜しているとみられる。南側の 84 次調査のローム面が標高 5.6m なので北西にむかって傾斜している。なお、西際で検出した SX07 は開析され、湿地帯であった状況を示しているとみられる。

2. 調査区の設定

調査範囲は敷地全体に及ぶ建物部分を対象としたが、中央部は既存建物建設時における破壊が特に著しいことから除外することになっていた。調査では廃土処理のため調査区を東西にわけ、東半部分から開始した。

3. 遺構の説明

攪乱と削平が著しく、遺構は少ない。

SD01

東半部分で検出された。蛇行しながら北側へ延びる。最大幅 1.2m、深さ 25cm を測る。断面形はロート状を呈し、埋土は灰色粘土を主とする。出土遺物は須恵器甕片、弥生土器片を含む少量である。

SX02

東半部分の東際で検出された。SD02 とほぼ平行した上端ラインのため溝の可能性がある。深さ約 20cm を測り、埋土は暗褐色粘質土を主とする。出土遺物は SD01 同様に須恵器甕片を含む少量である。

SX07

西半部分の西際で検出された。落ち際の出入りが著しく、基底面も攪拌されたように起伏が多い。埋土は明褐色の均質な土層で、細毛根と思われるものを多量に含み、縦方向のクラックに灰白色の粘土が貫入している箇所もみられる。湿地帯に堆積したものと考えられる。

埋土内からは Fig.5 の 1 甕棺片を含む弥生土器など少量である。埋没時期は明褐色の土色から古墳時代以降と思われる。

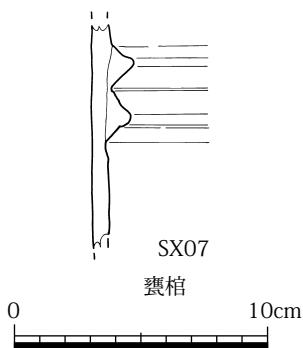


Fig.5 SX07 出土甕棺片 (1/3)



Ph.1 調査区東半全景（南西から）



Ph.2 SD01, SX02 (南西から)



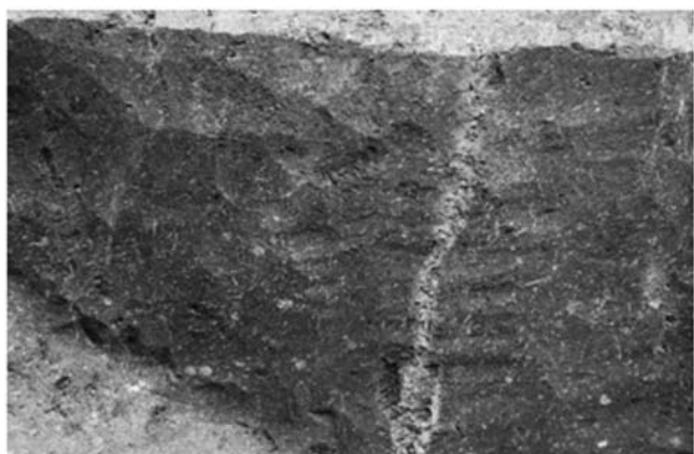
Ph.3 SX02 と東壁土層（南西から）



Ph.4 調査区西半部全景（北東から）



Ph.5 SX07 (段落ち 東から)



Ph.6 SX07 南側土層（木根、クラックの貫入）



Ph.7 SX07 南側土層（木根、クラック貫入）

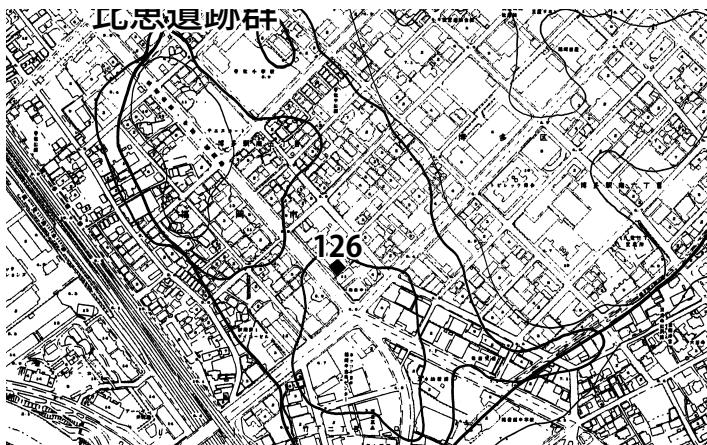


Fig.6 第126次調査地点位置（推定旧地形）

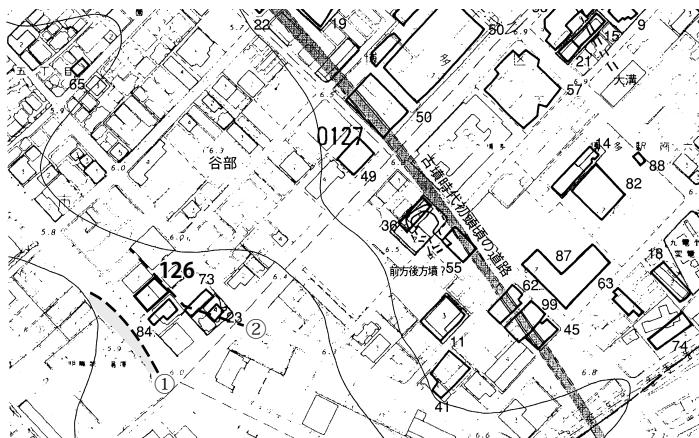


Fig.7 第126次周辺地形（1/4,000 「比恵55」 Fig.2に加筆）

- ①開析を受けた崖状の落ち（砂層の堆積）
- ②鳥栖ロームから八女粘土への落ち

IV おわりに

調査地点周辺の旧地形について

本調査区は台地縁辺に位置しているが、甕棺を含め弥生時代からの遺構が多く分布していたものと思われる。しかし、東側へ落ち八女粘土に達している地点では遺構分布が疎となっていく。

本調査区の西側では県道山田中原福岡線を隔てて対面した位置の試掘において砂層の堆積を検出している。このことから本調査区の西側はローム面が崖状に落ち、流路が北側へ延びていると推定される。

本調査区の東側も「II. 位置と環境」の項で説明したように台地が落ち谷部が形成されている。従って、本調査区と南側隣接地の84次のみ鳥栖ロームが残る形状を示していることから地峡状に北側へ段丘面が続くか若しくは北側にも落ちた台地の先端部になると考えられる。この形状がどの時代まで遡るのかは現在不明であるが、西側の流路は他の地点でも見受けられるように弥生時代までは台地が西側へも広がっていたところを古墳時代以降に開析した可能性がある。

報告書抄録

| ふりがな | ひえ 67 | | | | | | | |
|------------------|--|----------|----------|-------------|--------------|-----------------------|------------------------|--------|
| 書名 | 比恵 67 | | | | | | | |
| 副書名 | 比恵遺跡群第126次調査 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 福岡市埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第1238集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 荒牧宏行 | | | | | | | |
| 編集機関 | 福岡市教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2014年3月24日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 発掘期間 | 発掘面積 m ² | 発掘原因 |
| ひえいせきぐん 比恵遺跡群 | ふくおかげんふくおかし 福岡県福岡市 はかたくえきみなみ 博多区駅南 | 市町村 | 遺跡番号 | 33° 34' 33" | 130° 25' 42" | 20121217～ 20130117 | 156 | 記録保存調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | | |
| 比恵遺跡 | 集落 | 弥生・古墳・中世 | 溝・柱穴・段落ち | 甕棺片・須恵器・土師器 | 台地落ち際が検出された。 | | | |
| 要約 | 比恵遺跡群の南西に位置する。削平・搅乱が著しいが、弥生中期からの遺構が分布していたものと思われる。西側は台地が開析され、湿地帯状になっていたものと考えられる。周辺の調査成果から鳥栖ロームの台地が地峡状に延びた先端部分とみられる。 | | | | | | | |

比恵 67

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1238集

2014年(平成26年)3月24日

発行 福岡市教育委員会
〒810-0001 福岡市中央区天神1丁目8番1号
印刷 エース印刷株式会社
〒810-0052 福岡市中央区大濠1-6-9